

第 1 回 岐阜市地域福祉推進委員会 議 事 録

1. 開催日時

令和元年 5 月 30 日（木） 10:00～11:30

2. 開催場所

岐阜市役所本庁舎低層部 4 階 全員協議会室

3. 出席委員（13 名）

公募委員	青山 知子
岐阜市小中学校長会	阿谷 亘
中部学院大学	飯尾 良英
岐阜市身体障害者福祉協会	五十川 勝也
岐阜市自治会連絡協議会	井上 いほり
岐阜市青少年育成市民会議	江原 由美子
岐阜市介護支援専門員連絡協議会	郷 春子
岐阜市社会福祉協議会	後藤 東洋士
岐阜市老人クラブ連合会	篠田 孝
岐阜市民生委員・児童委員協議会	篠田 洋子
特定非営利活動法人コミュニティサポートスクエア	杉浦 陽之助
公募委員	福島 洋子
岐阜県社会福祉士会	吉田 麻美

（五十音順、敬称略）

4. 欠席委員（2 名）

岐阜市医師会	梅田 哲正
岐阜市赤十字奉仕団	鰐部 昌子

（五十音順、敬称略）

5. 議事要旨

1 開会	
(1) あいさつ	
—	(市長あいさつ)
(2) 委員長・副委員長の選出	
—	(飯尾委員長、後藤副委員長を選出)
(3) 諮問	
—	(市長から委員長に対し諮問)
2 議事	
(1) 岐阜市の現状・課題等について	
事務局	(「資料1 岐阜市の現状・課題等について」説明)
委員長	・市民の皆さんへのアンケートの回答率は、前回と比べてどうですか。
事務局	・前回とほぼ横ばいです。
委員長	・委員の皆さまから順番に意見などをお願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケートなど、初めて目にするもの、言葉も含めて新鮮だという以前に、すごくショックを受けました。例えば、高齢者の問題など、そういったものを目にして、自分がこのくらいの歳になって、なおかつ親が高齢者になって、ごみ出しが不自由であるとか、そういったことを正直、この歳になるまで気付きませんでした。現状を目の当たりにするまで気付かなかったということが、多くあります。 ・こういった場を通して、自分の周りに何を発信出来るか、自分がどういったことに視野を広げていくべきなのかということも考えながら、参加していきたいと思えます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 6ページの「次期計画の方向性」の中の、1番上の「人に関すること」というところを見て、実は学校教育の中に、ここを強化することに非常に重要な使命があるのではないかと感じました。なかなか大人になってから、こういったことを学んでいくことは難しい面があり、子どものうち、柔軟なうちに、こうしたことをきちんと学んでいくことが、つながっていくのではないかと思います。 ・そうすると、「お互いさまの意識の欠如」など4点について、学校という小さな特殊社会の中では、どの小中学校もこれらの教育活動の営みは確実にやっていると思います。しかし、残念ながら学校という特殊社会の中で閉じてしまっているのではないかと思います。今求められているのは、社会に開かれた教育課程といって、学校の学びだけに終わらせずに、それをいかに社会の実生活につなげていくかを工夫するということです。 ・例えば、思い切って「人に関すること」の計画のどこかに、小中学校教育における人に関する基盤づくりみたいな文言を入れて、学校も使命感を持ってやっていくことも重要だと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「人に関すること」の4つのことについては、これは重要な課題として受け止めながら、それぞれの組織で何が出来るのかということを考えていくことだと思います。その中で学校教育というのが、結構大事なポジションになってくるのかなと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校」というのは、これからの大切なキーワードですね。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料16ページの中で、「障がいに対する理解不足」ということがあります。障がいのある人に対する理解と言いますか、わからないというようなことがありましたので、地域に、それぞれ身体障害者の役員がおり、また、それから身体障害者相談員という人たちがみえることをお話しして、その人たちを手掛かりに、理解を深めてもらえたらと、思っています。 ・時代の流れとして、平成28年度から差別解消法施行、昨年からはヘルプマークを岐阜県が取り入れていました。今、駐車場は地面に車いすマークを描いた駐車場をそれぞれ整備されていますが、パーキングパーミット制度ということで、今年の10月からは、手帳をお持ちの方を優先する、思いやり駐車場などの動きがあります。ただし、私のスーパーでは駐車場を改善するような予算がないというようなことで、10月からスタートするかどうかわかりませんが、少なくとも行政はある程度動いてくれるだろうと思っています。 ・先ほど、ヘルプマークということも言いました。例えば、ヘルプマークを見てどれだけの人が意味を知っているのかなと思います。心のバリアフリーということで、小中学校、幼稚園、若い時から理解を頂かないと難しいのかなと思っており、学校教育の中でヘルプマークの意味などを取り入れて頂けると、成長した段階で自然にそれが備わっていくのかなと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の16ページの中で、3つの課題がここに整理をされていますが、全てが自治会の中で対応していく課題をご提示いただいているのかなと思いました。 ・「お互いさまの意識の欠如」について、自治会長は災害時に、自分の地域にお体の不自由な方、高齢の方、独居の方、そういう方とのつながりを持っているか、持っていないかで避難体制が変わるということで、今自治会長だから大変ということではなく、自分がその先、次の世代に守られていくということでのお互いさまだと思います。サラリーマンなどの時間制約のある自治会長もいますので、24時間見守るということではできず、何か地域でできないかということで、一部の地域の場合では、各世帯、団体間がつながる輪として、まちづくり協議会が地域のコンビニ、社会福祉事業所等も含めてつながるように声かけをしております。 ・ひとり暮らしの高齢者については、社会福祉協議会の事業で、民生委員や行政からのひとり暮らしの方の情報を出すことは、個人情報保護の観点からできません。一方、地域の自治会長は災害時にひとり暮らしの方が被害にあった時の情報提供ができないということで、1件1件丁寧に確認し、20世帯から100世帯を抱える自治会長全てが自分の地域にどういう状況の方がお住まいかということ把握し、つながりを持っていただいています。6月中旬からは、地区ごとにひとり暮らしで地域にお住まいの方は、お食事会を計画して顔なじみになっていただ

	<p>くという取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域課題への無関心」については、地域が発信する情報の不足が課題だと思いますので、情報発信を常に行う中で、昨今の子どもを見守ることの重大さも情報発信し、地域のコミュニティをつなげていければと思っています。それぞれが、すべてを自治会が解決できるわけではありませんが、自治会が核となって、まちづくり協議会などと一緒に動くとともに、子どもが大人に発信すると素直に聞かれることから、なるべく子どもたちに情報発信をしてもらえるよう、小中学校を検討して今抱える課題を大学や病院の先生と、地域で何を知っておくことが災害時に必要かを、毎年勉強会で検討しています。 ・認知症の方についての声かけについても、地域の見慣れた景色で、見慣れた人が出演する、認知症に関するDVDを作りました。また、民間事業者にご協力いただいて、水害想定で普段は命を守るガードレールが水害時に水没すると命を奪うものになる、水の中に入ってしまうと見えないというVR映像を作りました。こうした情報を、地域を含めて作成し、これは市全体で見ていただくといいのかなという情報があれば、全体にも発信をしていきたいと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動の場に参加をする、協力をするということで、夏祭り、市民運動会やラジオ体操などにみんなで協力して参加し、ボランティアを募り、地域の人と顔見知りになるということも合わせて実施しています。最近は高齢の方などが学校の見守りなどを実施している地域も多く、地域の高齢の方と子どもが顔見知りになるという機会も増えてきて、良い結果になってきていると思っています。子育て世代に関しましては、親子のふれあい教室などを実施する際に、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に来て参加して下さいということを呼びかけてやるようにしています。 ・高齢な方が家にひとりである際に、こういった地域福祉というこういう活動が役に立つと思います。周りの人に、お年寄りが1人だからということで助けていただかないといけないことがあると思います。 ・将来、地域で若い人たちが、色んな活動をしていくためには、子どもの時からの地域での関わりが大事だと思います。将来、自分も地域でやっていかないといけないなというところの芽生えを育てることが重要だと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には、地元で昔から暮らす人たち、新しく移り住んで暮らす人たちもいますが、担い手不足という課題が非常に大きくなります。そうした課題の中で、ずっと地域で生き続けることができるのかというところでは、社会資源の活用をせざるを得ない、手をつながざるを得ない状況にあるということを感じています。 ・社会資源においては、ボランティアなどの個人レベルに加え、行政レベルでも勧誘せざるを得ません。例えば、ボランティアも有償のボランティアをもう少し教育し担い手を増やすことや、地元に戻ってきた人たちの活躍の場を増やしていく必要があると思います。こうしたことは、個人レベルではできないので、自治会でもやってはいると思いますが、行政レベルでやっていかないといけない問題ではないかと思っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・公的な支援だけに頼る生活というよりも、地域の資源を活用して生活をしていくという将来的な財源も含めた将来設計をしていくという使命があるのではないかと思います。教育現場ということが皆さんから言われていますが、教育現場においても、小さい頃から、障がいがあってもなくてもひとしく手をつないでいける、自分に何が出来るのかということを考えていける教育現場というものに期待しています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブでは、ひとり暮らしの方の調査を毎年行っています。その方たちの変化がないかどうかということは、役員さんが回って調べています。しかし、これはクラブの会員でないと調査できません。そうしたことから、老人クラブばかりではなく、民生委員さんの方も調査しています。そうした横のつながりをしっかりして、変化がないかどうかということ調査しています。 ・最近では、認知症になられた方が増えてきています。そうした方たちをどのように見守っていくかということが、課題の1つだと思っています。 ・資料の14ページにあります「高齢化に伴う様々な課題」の中に、認知症の方を誰が面倒を見るかという観点では、子どもが転居してしまい、親のみの世帯が増えてきていることも課題です。そうした中で、様々な関係機関との横のつながりを模索し、考えていけたら良いと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の16ページですが、「場」の中には、いきいきサロンがありますが、参加される方は決まっています。また、子どもの居場所づくりで、子ども食堂がありますが、そういう子どもさんとひとり暮らし高齢者と一緒にふれあうような取り組みも重要ではないかと思います。 ・民生委員というのはつなぎ役ですから、ひとり暮らしの高齢の方で、支援が必要な方については、まずは、地域包括支援センターにお願いします。そうした中で、介護支援を受けられる方は良いのですが、介護支援までは必要のない一方で、ちょっとした手助けが欲しいという方が一番大変です。そうしたことから、小さな手助けの取り組みが各地区に広がればよいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな取り組みで70歳前半であったリーダーの方も、7~8年経って80歳代になりつつあり、高齢者の中の元気な方々もだんだんと弱ってきていると感じています。 ・子どもたちの居場所を作っていく上で、担い手として高齢の方々に参加をしていただく仕組みは作っていいと思います。 ・いきいきサロンなどの交流の場へ行かない人の話を聞きますと、そうした方は、そうした場ではいわゆる高齢者の方々が持っている課題の話ばかりで、どんどん自分の気持ちが暗くなっていくので、行きたくないということでした。何か自分の先の生活へつながるイメージや楽しさがないようです。 ・大人も子どもも来られるような夕方の食堂というものを実施しています。喫茶店に2週間に1回集まってもらい、多世代交流でやっぴこうというようなものを計画しています。試しに一度実施したところ、多くの方の参加があり、そのうちの何人かは子ども食堂を利用している子もいました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉は、子育て世代や子ども、高齢者というところに落ち着きがちな面があるかと思いますが、8050 問題のような課題にどのようにアプローチをしていくのか、少しでも何か良い形で役割を持っていただけるような地域を作っていきたいと思っています。 ・担い手の観点では、働いている世代の人たちがなかなか地域のことまでやっていくというのは、簡単なことではありません。高齢者の方や働いている世代など、自分のことで精一杯です。自分のことすらままならないという人たちに対して、どのように対応するかを考えていく必要があると思います。そうした方々が参加しやすいような、先ほど有償ボランティアというお話がありましたが、家族機能を社会化していくための予算付けが必要です。社会化までは難しければ、外部化というような形などを計画の中に盛り込んでいく必要があると思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から PTA の役員をやらせてもらっていただいています、PTA の役員などを決める時に、やりたくない、なぜやらなければいけないのかといわれる方が多く見えます。そうした方に対し、各々事情が違うため、一概に参加して下さいとは言いにくく、難しいなと思いつつやっています。 ・先ほど言われていたように、子どものうちに意識付けを行う必要があると思います。小さい子どもを持つ親は、まだ親になって経験が浅いと思います。そういう親たちに向けて、学校でも良いですが一緒に子どもたちのことを考えていける場が、強制的でもあれば良いと思います。 ・「意識の欠如」や「コミュニティの希薄化」というのは、やはり若いうちから少しずつ積み重ねていっているのかなと思います。日本は高齢化しているから希薄化しているということではなく、子どものうちから少しずつ希薄化というのは積み重ねていって、今になっていると思うため、子どものうちに学ぶ必要があるというの、親と一緒に学ぶ機会があればと考えています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と言いますと、本当に範囲が広いと思います。生まれた時から亡くなる時までの間、長い年月かけて人は勉強し、育っていくと思います。若いお母さん、お父さんたちもお仕事をされている方が今は特にたくさんいらっしゃる、子育てだけをやっていらっしゃるという方はほとんどいない世の中になってきたかと思います。そうすると保育所などが、かなり重要な立場になると思います。保育所を含めた、福祉に関連した事業所はどこも担い手不足だと聞きます。支援を必要とする人がたくさんいるのに、支援をする人がいないというのが現状です。時代が変われば、ニーズが変わってくるとは思うので、できる限りそうしたことを皆さんが協力をして、やっていただける世の中、そんな岐阜市になっていければ良いかなと思いました。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校にはコミュニティスクールというものがあります。地元の地域で、コミュニティスクールを通じて、高齢者あるいは認知症に対する理解を深めて頂ける取り組みをやっていただきたいという話をして、取り組んでいただけるようになりました。 ・自治会加入率が低下傾向にあり、住民自治基本条例が今年度の 4 月 1 日から施行

	<p>されました。こういうことも踏まえて、行政と自治会連絡協議会が一体となって、加入率の上昇を図りたいと思います。住民登録をされるとかあるいは新たに家を作られるとか、そういう行政の認可が伴うような時に、住民が自治会に加入して頂くようなお口添えを行政の方からもいただくなど、今までとは違った協力体制で、自治会加入率を上げることにより、地域全体の組織力を上げ、自治会が相談に乗れるような体制づくりを考えていく必要があるのではないかと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の地域で小さな手助け活動ということを開始しました。活動としてはまだ始めたてで、大きな活動にはなっていませんが、大半の活動を通じて、手伝った方からは大変、感謝をされているところです。こういう運動が岐阜市全体の中に広がれば、協議されました問題は大きく解決する方向にあると思います。 ・ ボランティアの問題も、この組織を立ち上げるにあたりまして、住民に対してボランティアに参加しませんかというお話をさせていただきましたが、積極的に参加いただける方はそんなに多くありません。しかし、自分の空いている時間であれば手助けというような形で、基本的には助けてあげたい、自分が役に立てればと思っている方は、何人もいます。ただ見えないだけではないかと思えます。各自治会の中には福祉委員という方が、社会福祉協議会が決めている中で設置していますが、こういう制度をもっと有効に活用していく必要があると思います。今年度から福祉委員である限りボランティアだという観点で、ボランティアに参加していただくことで、小さな手助け活動のボランティアと位置付け、活動をお願いすることにしていきます。ただ手助けしてくれるのを待つだけではなくて、そうした人材の掘り起こしも積極的な形で実施していく方向にするため、働きかけをしっかりとしていけば人はついてくる、発見できていく、助けていただけるものではないかと思えます。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な問題、ご指摘があったかと思いますが、私なりに感じたのは、1 つは、この地域福祉計画の理念であります「市民が主役のまちづくり」というところです。市民が主役ということで、オール岐阜という言葉もありますけれども、比較的これまで見落としがちであった、私たちの声が届いていなかったところです。例えば若者であったり、働く世代であったり、子どもたちであったり、そういう今まで声の届いていなかった人たちをいかにこれから巻き込んでいくのかというところが、新しい視点、今回の計画の中で強化をしていかななくてはいけないところではないかと思えます。そうした際には、本日お集まりの委員さんをご活躍されるそれぞれの場でご協力いただく形を引き出していきたいと思います。従来の社協支部や自治会の皆さんの協力は当然のことですけれども、新たにそういった考え方が重要だと思います。 ・ 2 点目は、高齢者の問題や子育ての問題という従来からの問題に加え、ご発言の中にありましたニートやひきこもり、子どもが食事をとれない家庭の問題、声上げられない人の問題、その問題をこの計画の中でどう取り上げていくことができるのかということです。地域の中で、孤立をされている、関わりを拒絶されているような方々を視野の中に入れていくということが、大事なのかなと思えました。計画ですので、全般に渡って網羅をしていかなければならないという使命は

	<p>ありますが、その中でも今期の計画の重点といたしますか、ポイントとして今ご発言いただいたようなことが盛り込まれていくのかなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の16ページにあります次期計画の方向性ですが、基本的には皆さんもこれをもとにご発言いただいていますし、だいたいこうした方向でまとまっていくのかなと思います。計画の作業はこの方向性で、進めてまいりたいと思います。
3 報告 (1) 今後のスケジュールについて	
事務局	(資料説明：資料2 今後のスケジュール)
4 閉会 (1) あいさつ	
—	(社会福祉協議会 常務理事 あいさつ)

— 以上 —